令和４年度シラバス(地歴公民)　　学番２６　　新潟県立新発田商業高等学校

教科（科目）	地歴（世界史Ｂ）	単位数	２	学年（コース）	２学年（商業科・情報処理科）
使用教科書	山川出版社『高校世界史Ｂ　改訂版』				
副教材等	帝国書院『明解世界史図説　エスカリエ　十三訂版』 山川出版『高校世界史基本用語問題集　ツインズ・マスター　改訂版』				

１　学習目標

世界の歴史の大きな枠組みと展開を諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解させ、文化の多様性・複合性と現代世界の特質を広い視野から考察させることによって、歴史的思考力を培い、複雑な現代世界を判断する資質を養う。

２　指導の重点

基本的な歴史事項に関する知識の定着と現代の世界の諸問題の歴史的背景についての認識を深める。

３　学習計画

月	単元名	教材	主要学習領域	学習活動（指導内容）	時間	評価方法
4 5 6 7	序章 オリエントと地中海世界 アジア・アメリカの古代文明	教科書 副教材	先史の世界 古代オリエント世界 ギリシア世界 ローマ世界 インドの古典文明	・人類が自然環境に適応しながら進化し、農耕・牧畜を基礎とする諸文明を築きあげたことに気付く。 ・西アジア世界の地理的特質を把握し、オリエント文明の盛衰、イラン人の活動を理解する。 ・地中海一帯の地理的特質を把握し、エーゲ文明、ギリシア・ヘレニズム文明の特徴を理解する。 ・都市国家から大帝国に発展したローマ文明の特質を理解する。 ・南アジアの地理的特質を把握し、インド文明の成立と発展、独自の宗教・社会制度など、南アジア世界の形成過程を理解する。	1 5 6 7 5	１学期 中間考査 提出物 １学期 期末考査 提出物
9 10 11	内陸アジア世界・東アジア世界の形成 イスラーム世界の形成と発展	教科書 副教材	中国の古典文明 南北アメリカ文明 北方民族の活動と中国の分裂 東アジア文化圏の形成 イスラーム世界の形成と発展	・東アジアの地理的特質を把握し、中国文明の起源、殷・周の成立から秦・漢帝国の動向までを理解する。 ・先住民族による南北アメリカ文明の形成とその特色を理解する。 ・東アジアにおける北方遊牧民の動向と、三国時代から魏晋南北朝という中国の分裂と動乱の時代を理解する。 ・隋唐帝国の国家制度や文化、日本を含む東アジア世界諸国の国家体制の整備やその動向を理解する。 ・イスラーム世界成立の背景とその特質、アラブ人による発展とイスラーム帝国の形成を理解する。イスラーム文明の特質とその影響、都市を中心としたネットワークを理解する。	4 1 2 5 8	２学期 中間考査 提出物 ２学期 期末考査 提出物

12	ヨーロッパ世界の形成と発展		西ヨーロッパ世界の成立 東ヨーロッパ世界の成立	・ゲルマン人移動後の西ヨーロッパでは、外部勢力との対抗の中で封建社会が形成されていったことを理解する。 ・ビザンツ帝国の繁栄とその社会や文化について理解する。	7 2	
1 2 3	内陸アジア世界・東アジア世界の展開 アジア諸地域の繁栄 近世ヨーロッパ世界の形成	教科書 副教材	西ヨーロッパ中世世界の変容 西ヨーロッパの中世文化 モンゴルの大帝国 明代、清代の中国と隣接諸地域 ヨーロッパ世界の拡大 ルネサンス 宗教改革	・十字軍以降の西ヨーロッパ世界の変容と諸国の動向を理解する。 ・教会と修道院、大学やスコラ学などから、ヨーロッパ中世文化の特色を理解する。 ・モンゴル帝国の興亡と、その活動が日本を含む諸地域世界に与えた影響を理解する。 ・明朝、清朝の繁栄と支配、東アジア世界の状況を理解する。 ・ヨーロッパ世界の拡大とアメリカ大陸の征服、それに伴うヨーロッパ社会の変革の動きを理解する。 ・ルネサンスがもたらした芸術・思想・科学の変革の内容と意義を理解する。 ・ドイツから始まった宗教改革の理念とその拡大、カトリック教会の対応を理解する。	4 1 3 4 2 2 1	3学期学年末考査 提出物

4　課題・提出物等

計　70 時間（50 分授業）

適宜、ノートや課題の提出を求め、授業への取り組み方や基礎的知識の定着度を見ます。

5　評価規準と評価方法

観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
評価規準	世界の歴史の大きな枠組みと流れに対する関心と課題意識を高め、意欲的に追求するとともに、国際社会に主体的に生きる国家・社会の一員としての責任を果たそうとする。	世界の歴史から課題を見いだし、文化の多様性と現代世界の特質を世界的視野に立って多面的・多角的に考察するとともに、国際社会の変化を踏まえ公正に判断できる。	世界の歴史についての諸資料を収集し、有用な情報を選択して活用することをとおして歴史的事象を追求する方法を身につけるとともに、追求し考察した過程や結果を適切に表現できる。	世界の歴史についての基本的な事柄を、我が国の歴史と関連付けながら理解し、その知識を身につけている。
評価方法	以上の観点を踏まえ、定期考査、ノート・課題の提出、学習活動への参加姿勢や態度から総合的に評価します。			

6　担当者からの一言

２年生の世界史Ｂは中学校での歴史学習を基礎としつつ、近代以前の世界諸地域と諸民族の動きを中心に学習します。また、その学習を通じてこれから進むべき世界と日本について考えることが求められる科目です。

限られた授業時間の中で多くのことを学習しますが、意欲的に取り組んでもらいたいと思います。

令和４年度シラバス(地歴公民)　　学番２６　　新潟県立新発田商業高等学校

教科（科目）	地歴（世界史Ｂ）	単位数	２	学年（コース）	３学年（商業科・情報処理科）
使用教科書	山川出版社『高校世界史Ｂ』				
副教材等	帝国書院『明解世界史図説　エスカリエ　十二訂版』 山川出版『高校世界史基本用語問題集　ツインズ・マスター　改訂版』				

１　学習目標

現代史を中心とする世界の歴史的形成過程と文化の多様性についての認識と理解を深め、広い視野から考察して歴史的思考力と複雑な現代世界を判断する資質を養う。

２　指導の重点

基本的な歴史事項に関する知識の定着と現代の世界の諸問題の歴史的背景についての認識を深める。

３　学習計画

月	単元名	教材	主要学習領域	学習活動（指導内容）	時間	評価方法
4 5 6 7	近世ヨーロッパ世界の形成 近世ヨーロッパ世界の展開 近代ヨーロッパ・アメリカ世界の成立 欧米における近代国民国家の発展	教科書 副教材	ヨーロッパ主権国家体制の形成 重商主義と啓蒙専制主義 ヨーロッパ諸国の海外進出 17～18 世紀ヨーロッパの文化と社会 産業革命 アメリカ独立革命 フランス革命とナポレオン ウィーン体制の成立 ヨーロッパの再編	・主権国家体制の特色、ヨーロッパ諸国の内乱や戦争の動向を理解する。 ・17～18 世紀ヨーロッパ主権国家の展開を重商主義、王権神授説、啓蒙専制主義に注目して理解する。とくにイギリス革命とフランス絶対王政絶頂期が、同時代に展開していることに着目する。 ・ヨーロッパ諸国の植民地争奪と大西洋三角貿易のもたらした影響について理解する。 ・文化の特色と、それを生み出した社会状況を理解する。 ・産業革命の背景と展開、産業資本主義体制の確立と社会問題の発生について理解する。 ・経過と、独立が近代民主政治に与えた影響を理解する。 ・仏革命やナポレオン戦争の展開と、近代民主政治に与えた影響を理解する。 ・19 世紀前半の西ヨーロッパの動向を、正統主義と、自由主義・ナショナリズムの対立を軸に理解する。 ・ロシアの南下政策、イタリアとドイツの統一、ビスマルク外交を中心に、国際関係を理解する。	4 4 1 1 3 2 5 3 3	１学期 中間考査 提出物 授業への参加姿勢 １学期 期末考査 提出物 授業への参加姿勢
9 10	アジア諸地域の動揺	教科書 副教材	南北アメリカの発展 19 世紀欧米の文化 西アジアの変容 南アジア・東南アジアの植民地化 東アジアの激動	・ラテン＝アメリカの独立と問題点、アメリカ合衆国の領土拡大と南北戦争、資本主義の発展について理解する。 ・文化の特徴と成立背景を理解する。 ・オスマン帝国支配の動揺と改革を軸に理解する。 ・インドの英による植民地化の過程、東南アジア諸国争奪戦と支配について理解する。 ・清朝の動揺と近代化の試み、日本の開国と台頭による東アジア国際秩序の変化について理解する。	3 1 1 1 2	２学期 中間考査 提出物 授業への参加姿勢

11 12	帝国主義とアジアの民族運動 二つの世界大戦		帝国主義と列強の展開 世界分割と列強対立 アジア諸国の改革と民族運動 第一次世界大戦とロシア革命 ヴェルサイユ体制下の欧米諸国 アジア・アフリカ地域の民族運動 世界恐慌とファシズム諸国の侵略 第二次世界大戦	・帝国主義の特質と、欧米列強諸国の社会の変化を理解する。 ・アフリカ・太平洋・南米の植民地化をめぐる競合について理解する。 ・アジア各国の民族運動、日露戦争と韓国併合がもたらした影響を理解する。 ・この大戦が帝国主義による戦争であること、ロシア革命がめざしたことについて理解する。 ・国際協調をめざしたヴェルサイユ体制の意義と限界について理解する。 ・民族運動の高揚と列強による弾圧について理解する。 ・世界恐慌を機に、ファシズムの台頭が台頭し、世界に国際的緊張が高まっていくことを理解する。 ・大戦の経過と各国の政治・経済の動向を理解する。	3 2 2 4 3 2 2 4	２学期期末考査提出物 授業への参加姿勢
1 2 3	冷戦と第三世界の独立 現在の世界	教科書 副教材	戦後世界秩序の形成とアジア諸地域の独立 冷戦の激化と西欧・日本の経済復興 第三世界の台頭と米・ソの歩み寄り 石油危機と世界経済の再編 冷戦終結後の世界の概観	・冷戦体制の成立と。アジア諸国の独立と分断について理解する。 ・朝鮮戦争を機とした日本の復興、「雪どけ」が与えた影響について理解する。 ・第三世界の躍進と限界、米ソ対立の激化と緩和について理解する。 ・アメリカ一国支配の限界と冷戦の終結を理解する。 ・冷戦終結後、途上国の民主化と独裁政権の動揺、地域紛争激化と経済格差拡大について概観する。	3 1 3 2 5	３学期学年末考査提出物 授業への参加姿勢

4　課題・提出物等　　計７０時間　（５０分授業）

適宜、ノートや課題の提出を求め、授業への取り組み方や基礎的知識の定着度を見ます。

5　評価規準と評価方法

観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
評価規準	世界の歴史の大きな枠組みと流れに対する関心と課題意識を高め、意欲的に追求するとともに、国際社会に主体的に生きる国家・社会の一員としての責任を果たそうとしている。	世界の歴史から課題を見いだし、文化の多様性と現代世界の特質を世界的視野に立って多面的・多角的に考察するとともに、国際社会の変化を踏まえ公正に判断できる。	世界の歴史についての諸資料を収集し、有用な情報を選択して活用することを通して歴史的事象を追求する方法を身につけるとともに、追求し考察した過程や結果を適切に表現できる。	世界の歴史についての基本的な事柄を、我が国の歴史と関連付けながら理解し、その知識を身につけている。
評価方法	以上の観点を踏まえ、定期考査、ノート・課題の提出、学習活動への参加姿勢や態度から総合的に評価します。			

6　担当者からの一言

３年生の世界史Ｂは、２年生での歴史学習を基礎としつつ、近代以降の世界諸地域と諸民族の動きを学習します。また、学習を通じてこれから進むべき世界と日本について考えることが求められる科目です。

限られた授業時間の中で多くのことを学習しますが、意欲的に取り組んでもらいたいと思います。

令和４年度シラバス（地歴公民）学番２６　新潟県立新発田商業高等学校

教科（科目）	地歴（日本史Ａ）	単位数	３	学　年	３学年（商業科・情報処理科）
使用教科書	東京書籍『日本史Ａ』現代からの歴史				
副教材等	第一学習社『最新日本史図表　新版初訂』				

１　学習目標

近現代史を中心とする我が国の歴史の展開を、世界史的視野に立ち我が国を取巻く国際環境などと関連付けて考察させることによって、歴史的思考力を培い、国民としての自覚と国際社会に主体的に生きる日本人としての資質を養う。

２　指導の重点

・日本の近現代史を中心に基礎的事項や基本的な流れをわかりやすく考察していく。
・世界史的な視野を常に配慮して授業を進めていく。

３　指導計画

月	単元名	教材	主要学習領域	学習活動（指導内容）	時間	評価方法
4 5 6 7	近代日本の形成	教科書 副教材	・国際情勢の変化と明治維新 ・明治新政府の諸改革と社会の変化 ・立憲国家の成立	・開国後、明治維新を経て、近代日本が急速に形成された過程を国際的な動きと関連付けて理解する。 ・アメリカが日本に対して開国要求を強めた背景、ペリーの強硬な要求に対する日本の対応について理解する。 ・新政府の方針の特徴と中央集権体制が整備されていく過程を政治・経済の両面から理解する。 ・明治初期に政府がとった対外政策と、国会開設要求や反政府運動の発生理由について考察する。 ・アジアの動向の中から自由民権運動が目指したものは何であったか考察する。 ・明治憲法の成立過程と諸法典について、内容の理解を深める。	7 7 7 5 5 5	１学期 中間考査 課題提出 授業への参加姿勢 １学期 期末考査 課題提出 授業への参加姿勢
9 10	近代国家の成立と国際関係の推移 二つの世界大戦と日本	教科書 副教材	・日清戦争と近代社会の確立 ・日露戦争と帝国日本の形成 ・第一次世界大戦と帝国日本	・日清戦争の原因と経過・影響について考察する。 ・日露戦争が国民にどのような影響を及ぼしたについて理解する。 ・戦後の資本主義の発達と社会運動への弾圧過程を考察する。 ・大戦中の日本の中国侵略が、欧米列強の反発を招いたこと、戦後の民族独立運動の中で、日本は中国・朝鮮　で民族独立運動に直面したことを理　解する。	8 7 8	２学期 中間考査 課題提出 授業への参加姿勢 ２学期 期末考査 課題提出 授業への参加姿勢

11			・政党政治の時代 ・軍国日本への道	・政党政治の展開を、政治・経済・外交の各側面から考察し、その意義と限界を理解する。 ・昭和恐慌が深刻化していく中で、我が国は内外ともに政策の行き詰まりを見せ、軍部・右翼の台頭による国家改造や軍拡・大陸侵略を目指す動きが起こったことを理解する。	7 8	
12 1 2	第二次世界大戦後の国際社会と日本	教科書 副教材	・太平洋戦争 ・現代世界の開幕と日本の戦後改革 ・高度経済成長の時代、低成長から経済大国へ	・日独伊三国同盟の締結により、日米間の対立が深刻化し、開戦に至った経緯を考察する。 ・大戦後の世界情勢の変化や連合国による占領政策の目標、戦後改革について理解する。 ・冷戦下での対日講和は、日米安全保障条約と抱き合わせとなり、日米関係の強化が進んだことを理解する。 ・高度経済成長に伴う新たな外交関係、国民生活の変化について考察する。	9 9 6 7	3学期学年末考査 課題提出 授業への参加姿勢

計　105時間（50分授業）

4　課題・提出物等

適宜、基礎的知識の定着をはかるために課題を課し、提出を求めます。

5　評価規準と評価方法

観　点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
評価規準	近現代史を中心とする我が国の歴史の展開に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究するとともに、国民としての自覚と国際社会に主体的に生きる日本人としての責任を果たそうとしている。	近現代史を中心とする我が国の歴史の展開から課題を見いだし、世界史的視野に立ち我が国を取り巻く国際環境などと関連づけて多面的・多角的に考察するとともに、国際社会の変化を踏まえ公正に判断できる。	近現代史を中心とする我が国の歴史の展開に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して活用することを通して歴史的事象を追究する方法を身に付けるとともに、追究し考察した過程や結果を適切に表現できる。	近現代史を中心とする我が国の歴史の展開についての基本的な事柄を世界史的視野に立ち、我が国を取り巻く国際環境などと関連付けて理解し、その知識を身に付けている。
以上の観点を踏まえ、定期考査、小テスト、課題提出物、ノート提出、授業態度等を総合して評価します。				

6　担当者からの一言

この日本史Ａにおいては、日本の近現代史を中心に勉強することになります。１、２年生での世界史学習をふまえ、日本の近代国家の推移を考察する視点をもつことができれば、より厚みのある近現代史像が構築されると思います。まずは興味を持って授業に臨んでください。

令和４年度シラバス（地歴公民）　　学番２６　新潟県立新発田商業高等学校

教科（科目）	公民（政治経済）	単位数	2	学　年	３学年（商業科・情報処理科）
使用教科書	東京書籍「政治・経済」(政経３11)				
副教材等	浜島書店「最新図説　政経」				

1　学習目標

グローバル化が進む今日の世界は，従来，定型的にとらえ，理解してきた政治，経済，社会のしくみそのものが大きな変化に見舞われている社会でもあります。そのような社会において自律した社会人として変化に対応し，また，普遍的な価値を守っていくために政治社会や経済社会の基本的な枠組みやしくみを深く理解することが重要です。その上でそれらの知識や多くの情報を的確に組み合わせ，取捨選択して変化の激しい社会を生き抜く能力を身につける必要があります。そうしたねらいを達成するため，「政治・経済」は段階的な知識・理解の涵養と民主社会に生きる能力の向上をめざしています。学習や考察を通して，現代の社会にどのように対応していくか，個人として，人間としてどのように社会生活を営むべきかを考える能力を身につけることをめざします。

2　指導の重点

①現代経済のしくみを基礎的な経済理論の観点から理解するとともに，国民経済の動向および，政府の役割と日本経済が抱える課題などについて考察します。
②民主主義の本質について理論的・体系的に理解を深めます。
③現代の政治，経済，国際関係などについて客観的に理解するとともに，現実の情勢を主体的に探究する態度を身につけます。
④日本国憲法の基本原理，日本の政治機構などについて理解し，現代の政治の諸課題について考察を深めます。
⑤「法の支配」の意義について理解を深めるとともに，現実の社会における法の機能について学び，国民の司法参加の意義や課題について考察します。
⑥国際社会の現状と諸課題について理解し，国際社会に生きる日本の役割について考察します。
⑦以上の理解や考察を踏まえて，現代社会の諸課題について主体的に考察するとともに公正な判断力を養い，良識ある公民としての必要な能力と態度を身につけます。

3　指導計画

月	単元名	教材	主要学習領域	学習活動（指導内容）	時間	評価方法
4 月	第２章 現代の経済	教科書 副教材	１節 現代の資本主義経済 ①資本主義体制の成立 ②資本主義経済の発展と変容	○現代の資本主義経済がどのような歴史的経緯をへて成立しているのかを理解するとともに，資本主義経済の特徴についても理解を深めます。 ○資本主義経済の変容について理解を深め，社会主義経済の理論と現状について考察します。また，1970 年代以降に台頭した新自由主義についても考えます。	4	
			２節 現代経済のしくみ ①経済主体と経済の循環	○経済主体間の結びつきを考えながら，経済活動の循環について考察します。	１２	

5月 6月 7月			②生産のしくみと企業 ③市場経済の機能と限界 ④国民所得と経済成長 ⑤金融のしくみと機能 ⑥財政のしくみと機能 ３節 日本経済の発展と産業構造の変化 ①経済再建から高度成長へ ②オイル・ショック後の日本経済 ③日本経済の現状 ４節 福祉社会と日本経済の課題 ①公害と環境保全 ②消費者問題 ③農業・食料問題 ④中小企業の現状と課題 ⑤雇用と労働問題	○資本主義経済を支える企業活動とはどのようなものかを理解し，企業形態の中心である株式会社の特徴と今日的あり方について考察します。 ○資本主義経済の核心をなしている市場の働きについて理解し，市場の失敗についても理解を深めます。 ○国民経済をマクロ的にとらえることの意義を理解し，物価や景気の変動が国民生活におよぼす影響についても考察します。 ○金融の基本的なしくみとともに銀行や中央銀行が果たす役割について理解します。また，金融の自由化など金融をめぐる環境の変化についても理解を深めます。 ○租税の意義や財政の基本的な役割を理解するとともに財政の課題と財政改革の必要性について考察します。 ○第二次世界大戦後の日本経済復興期の諸改革や高度経済成長にいたる経緯と背景について理解します。 ○オイル・ショック後の日本経済の変容と産業構造の変化について理解し，バブル経済とその崩壊について考察します。 ○「構造改革」の特徴と影響を考察し，世界金融危機や東日本大震災後の日本経済の現状について考察します。 ○足尾銅山鉱毒事件以降，日本経済の発展とともに発生した公害問題と政府による公害への対策の動きについて学習し，環境問題の解決と循環型社会の形成に向けて何が必要なのかを考察します。 ○消費者問題とは何か，またその背景に何があるかを考え，消費者主権の意義を考察します。 ○日本農業の現状と農業政策の変遷を理解し，食料問題や日本農業の課題について考察します。 ○中小企業の地位と役割について学習し，日本の中小企業の現状と課題について考察します。 ○労働問題と労働運動の歴史的経緯について学習し，労働者の権利や労働組合の意義について考察します。また，雇用環境の変化と現代の労働問題について理解します。	5 8	Ⅰ学期 中間考査 課題提出 授業への参加姿勢 Ⅰ学期 期末考査 課題提出 授業への参加姿勢

9 月 10 月			⑥社会保障と福祉 ５節 国民経済と国際経済 ①貿易と国際収支 ②国際経済体制の展開 ③発展途上国の経済 ④地域主義の動き ⑤グローバル化する世界経済 １節 民主政治の基本原理 ①民主政治の成立 ②基本的人権の確立 ③現代の民主政治 ④世界のおもな政治体制 ２節 日本国憲法の基本原理 ①日本国憲法の制定と基本原理 ②基本的人権の保障	○社会保障制度の歴史について外国も含めた発展の経緯について学習し，日本の社会保障制度の４つの柱について理解を深めます。また，人口減少社会の問題点や課題とその解決策について考えます。 ○貿易の意義，自由貿易の利点などについて比較生産費説をもとに理解します。また，国際収支のとらえ方や外国為替のしくみを学習します。 ○国際通貨体制や IMF-GATT 体制の変遷について理解し，保護貿易主義の台頭と国際協調の動きについて考察します。 ○南北問題や南南問題の歴史的な変遷と発展途上国の経済発展の状況および南北格差の是正について考察します。 ○EU の成立過程と現状について理解し，ASEAN や APEC などさまざまな形態をとる地域的経済統合の動きについて考察します。 ○グローバル化の進展にともなうさまざまな経済環境の変化について考え，日本の役割について考察します。 ○民主政治の基本原理について，その成り立ちを歴史的な観点から理解し，また，「法の支配」の原理についてその意義を学び，実社会を規制する法の意義や機能について学習します。 ○人権の意義と歴史的経緯および人権の国際化の現状について理解します。 ○民主政治の本質について歴史的経緯や脆弱性，今日的な課題について学習します。 ○民主政治の主たる形態である議院内閣制と大統領制の特徴を学ぶとともに，イスラム諸国の政治体制，および社会主義国の変遷や権力集中制をとる国々の現状について学習します。 ○日本国憲法の成立過程と三大基本原理である国民主権，基本的人権の尊重，平和主義について歴史的な経緯を踏まえながら理解します。 ○日本国憲法が保障する基本的人権について，平等権，自由権，社会権などに関する具体的な判例に則 しながら，その特徴と課題について学習します。	8 4 6	２学期 中間考査 課題提出 授業への参加姿勢

			③平和主義	○日本国憲法の根本理念である平和主義について学習するとともに，現実の課題である日米安全保障条約にともなう沖縄の米軍基地の問題や自衛隊の現状などについて考察します。		
11月			３節 日本の政治機構 ①国会と立法	○国会が「国権の最高機関」とされることの意義と三権分立との関係を理解します。また，二院制を採用している意義と特徴および衆議院の優越がどのように機能しているかについて学習し，日本の国会の権限と課題について考察します。	7	
			②内閣と行政	○戦前と戦後の内閣の違いを考察した上で，内閣の機能や内閣総理大臣の権限を学習します。また，世界的な傾向である行政国家化と官僚制の問題を考え，あわせて日本の行政をめぐる諸課題と改革の動きについて理解します。		
			③裁判所と司法	○司法のあり方について，戦前と現行憲法下の共通点と異なる点を考察し，三審制のしくみや違憲法令審査権の意義，検察審査会の役割などについて学習します。また，国民の司法参加と司法改革の動きやさらなる課題について考察します。		
			④地方自治	○民主政治における地方自治の意義とあり方について理解し，国と地方との関係や課題，住民の政治参加のしくみと意義について考察します。		２学期 期末考査 課題提出 授業への参加姿勢
12月			４節 現代政治の特質と課題 ①戦後政治と政党	○民主政治における政党や利益集団の意義と役割について考察し，あわせて日本における政党の歴史的経緯について理解します。	4	
			②選挙と政治意識	○「18 歳選挙権」を念頭におき，民主政治における選挙の意義を理解し，そこから導き出される選挙の原則を考察します。また，選挙制度の類型とそれぞれの特徴を学習するとともに，日本の選挙制度が抱える課題や問題点について考察します。		
			③世論と政治参加	○世論の役割を考察し，世論形成に大きな影響を及ぼすマスメディアの現状とあり方について考えます。また，国民の政治参加の新たな動きについて考察します。		
			５節 現代の国際政治 ①国際政治の特質	○国際社会の成立過程と主権国家と国際社会の関係について学習し，国際組織や地域的機構など主権国家以外の構		

1月			②国際社会と国際法 ③国際連合の役割と課題 ④戦後国際関係の展開と日本 ⑤国際政治の課題 ⑥地球環境と資源・エネルギー問題 ⑦国際社会における日本の役割 ＊1節，2節で取り上げられているテーマのなかからいくつかを選択して学習します。	成要素や新たに登場してきた NGO の役割について理解し，国際社会と個人との関係について考察します。 〇国際社会の秩序維持にとって，国際法の果たしている役割を理解するとともに，国際法に基づく司法的解決の制度について考察します。 〇国際平和の実現のために形成された勢力均衡や集団安全保障のしくみについて理解します。また，その具体化である国際連合の成立過程やしくみ，役割と課題について学習します。 〇第二次世界大戦後の冷戦構造の変遷について学習し，冷戦の終結後もなぜ紛争などの問題が起こっているのか考えます。 〇第二次世界大戦後の核軍拡競争の流れと非核化，軍縮の努力について学習し，地域紛争の現状と難民の問題や2001 年以降拡散するテロリズムについて考えます。 〇地球環境問題と資源・エネルギー問題についてその現状を理解し，環境保護の取り組みと課題について考えます。 〇地球規模の課題に対応するには何が重要かを考察し，また，今日の国際社会における日本外交の課題について考えます。また，日本の国際貢献のあり方を考察し，人類の普遍的価値のために何が重要かを考えます。 テーマの例 〇日本の政治や経済に大きな影響を与える少子高齢化について，どのような問題が起こるか理解し，望ましい社会保障のあり方について考えます。 〇地方分権の動きについて現状を理解し，地域社会が抱える問題について理解を深めます。また，その解決策について考察します。 〇若者を取り巻く労働環境の現状を理解し，フリーターやニート，非正規雇用の増加について背景や問題点を考察します。 〇悪化する中小企業を取り巻く現在の環境を理解します。また， 中小企業が生き残り，発展する条件を考えます。 〇日本の農業の現状とあるべき姿について考察し，日本の農業を取り巻く環境をいかに改善するべきか考えます。 〇世界のエネルギー供給の現状と課題を理解し，原子力発電の動向について2011 年の福島第一原子力発電所事故	9 3	3 学期学年末考査 課題提出 授業への参加姿勢

				以後の動きを考察します。また，再生可能エネルギーの開発状況を確認し，省資源・省エネルギーの取り組みの必要性について考察します。 〇国際的な経済格差と貧困の現状を理解し，なぜ貧困がなくならないのかを考察します。また，国際社会による経済援助の現状とその問題点について理解するとともに，開発援助のあるべき姿についても考察します。 〇国際社会の課題の一つであるパレスチナ問題に焦点を当て，歴史的経緯や問題の所在，宗教対立の根深さなどについて理解を深め，解決の糸口について考えます。また，各地で起きている地域紛争にも触れて問題解決へ向けた共存のあり方を考えます。 〇現在の地球社会で実現すべき価値は何か，地球社会はその価値の実現のためにどのような状況の下におかれているか，日本にはそのためのどのような能力があるのかを考え，平和と公正な国際社会の構築に向けて日本のなすべきことを考察します。		

計　７０時間（50 分授業）

4　課題・提出物等

適宜、基礎的知識の定着をはかるために課題を課し、ノート提出を求めます。

5　評価規準と評価方法

観　点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
評 価 規 準	〇現代の経済，社会，政治，国際関係などにかかわる基本的な問題や課題にかかわる事柄に関心をもち，意欲的に探究しようとしている。 〇社会的事象を総合的に理解し考察しようとする態度を身につけている。 〇社会の一員として平和で民主的な社会生活の実現と推進をはかるため参加，協力する態度を身につけている。	〇現代の経済，社会，政治，国際関係などにかかわる基本的な問題，人間にかかわる諸課題を考察し，それらの本質や特質，さらには望ましい解決のあり方について広い視野に立って多面的，多角的に考察している。 〇社会の変化やさまざまな立場，考え方があることを理解した上で公正に判断している。 〇課題についての考察や判断の過程や結果をさまざまな方法を駆使して適切に表現している。	〇現代の経済，社会，政治，国際関係などにかかわる基本的な問題や重要な課題にかかわる事柄に関する諸資料をさまざまなメディアから収集し，有用な情報を適切に選択・活用することができる。 〇得られた資料や情報を効果的に活用し，社会の諸問題を探究する学び方を身につけている。	〇現代の経済，社会，政治，国際関係にかかわる基本的な事項や課題について体系的，総合的に理解し，その知識を身につけている。
以上の観点を踏まえ、定期考査、課題提出物・ノート提出、授業態度等を総合して評価します。				

6　担当者からの一言

現代社会にどのように対応していくか，個人として，人間としてどのように社会生活を営むべきかを考えていきましょう。日本社会が抱える課題および国際社会が直面する課題に対して，わたしたちひとりひとりがどう向き合えば良いかを考察していきましょう。まずは興味を持って授業に臨んでください。